

どうとくのひろば

4年生の道徳の授業

主題名：正しいことは自信をもって

ねらい：【善悪の判断】

教材名：「友達が泣いている」

あらすじ：ある学級において起こってしま



ったいじめにつながりかねない場面を例に、7名のクラスメイトの様々な意見を示し、いじめはどうしたらなくなるのかを考える。

授業での具体的な様子

導入場面では、まず、今日の話はBさんがAさんを泣かせてしまったことから始まることを伝え、自分たちのクラスにも同じような状況があることを確認しました。そして、泣かせてしまったBさんの言葉を黒板に掲示し、このことについてどう思うかを子供たちに問いました。すると、「何もしていないのにたたくのはだめ」「急に頭をたたくのはいけないことだよ」などの、Bさんを非難する言葉がたくさん出ました。そこで、Bさんの行為はいじめにつながる正しくない行動であることを共有しました。次に、教科書を開き、周りの人たちの言動についてどう思うかを問いました。すると、HさんやIさんの言動について「正しい」と思う人と「正しくない」と思う人が分かれたので、めあてを「正しい行いととはどんなことだろう」とし、考えていくことにしました。



展開場面では、まず、学習支援アプリ上でベン図を用いたワークシートを配布し、「正しい、どちらとも言えない、正しくない」の考えを表出・比較できるようにしました。その場所に置いた理由を自由に交流した後、「どちらでもない」に置いたものについて話し合いました。「僕は見てなかったし、関係ないよ」と言っているHさんについては、「関係ないんだから、あまり話に入らない方がいい」「関係ないからといって何もしないのはよくない」などの意見が出ました。かわいそうと思っていたけれど何もできなかったIさんについては、「思いをもっていても、行動できてないのは正しくないと思う」「でも、思いはあるから正しいと思う」などの意見が出て、互いの意見を伝え合う姿が見られました。

終末場面では「あなた自身は誰の立場に近いですか？」と問い、今回の学びについて自分と近付けて振り返る時間を設けました。以下は、子供たちが授業の最後に書いた感想です。

- 今までHさんのように「関係ないから」という理由で（話し合いに）入っていかなかったけど、これからは関係がなくても話し合いに参加したいです。
- 私は、今までCさんの立場だったから、もっとBさんのような人のことを考えて、優しく言えるようになりたいと思いました。

切り取り

道徳だよりへのご質問・ご感想

()年 ()組 児童名 ()

